

3) 造船・航海等に関する調査

板井英伸¹

キーワード：海洋文化、造船技術、サバニ、地域連携

1. はじめに

本事業では、地域と連携して沖縄を代表する木造漁船・サバニの造船・航海技術に関する調査・研究を行い、その保存・継承を支援することを目的として、令和3年度には前年に南城市玉城字奥武の奥武島造船所に依頼して建造したサバニの建造工程に関する記録を、地元公民館や沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）、海洋文化館での企画展・一般向け講座などの実施に活用し、ひろく一般に周知したが、令和4年度には海洋文化館で引き続き展示したほか、将来的な常設展示に向けて調整を開始した。

2. 概要

令和2年度に建造した奥武島のサバニを、令和3年度に続いて海洋文化館で展示した（写真-1）。これに先立ち、本サバニに再度燻蒸処理を施した。また、令和5年度以降も継続できるよう調整した。



写真-1 海洋文化館での展示状況

大宜味村、東村、本部町、南城市、糸満市においてサバニの造船・操船技術者を訪問し、サバニの建造および活用状況を記録した。また、現地協力者に依頼して八重山郡各地でも同様の調査を实

施した。これらの調査結果を取りまとめ、撮影した写真・動画等成果物を地域の自治会・公民館に提供して活用していただいたほか、引き続き講演用テキストの作成に活用した。また、後述の糸満市文化財保護委員会での審議にも活用した。

3. 成果

過去の調査活動が評価されたことにより、南城市奥武区自治会から招待を受け、奥武区新公民館落成記念祝賀会に出席した。また、令和3年度までに実施した同区での調査時に撮影した写真が同公民館落成記念誌に掲載されたほか、令和3年度に作製した「奥武島のサバニづくり」に関する冊子が同公民館の民具展示コーナーに配置され、来館者の閲覧に供されることになった（写真-2, 3）。



写真-2 奥武区新公民館落成記念祝賀会

¹ 普及開発課



写真-3 奥武区公民館展示コーナーでの冊子設置状況

また、これらの活動の成果を琉球大学での財団寄附講義の教材として活用したほか、12月には海洋文化館での展示・講演会に、3月には財団内で行われた総合研究センターの情報共有座談会において活用した（写真-4）。



写真-4 情報共有座談会スライド（一部）

なお、これらの活動が契機となり、糸満市教育委員会からの委嘱を受けて文化財保護審議委員に就任し、漁具ならびにサバニ建造技術の文化財化に関する会議に出席した（写真-5）。また、同教委から、令和5年度までの委員任期延長の打診があり、これについては調整中である。また、国立民族学博物館と共同で執筆したタンクブニに関する論文が、査読の結果、沖縄民俗学会機関誌『沖縄民俗』の第38号に採択され、掲載が決定した。



写真-5 糸満市文化財審議委員会出席状況

4. 外部評価委員会コメント

奥武島で建造したサバニを海洋文化館で展示するだけでなく、その建造過程の記録を冊子にまとめて公開し、撮影した写真が奥武島公民館記念誌に掲載されるなど調査研究成果の現地還元に大きく貢献している。また、大宜味村や糸満市などでもサバニの建造と活用状況を調査し、その記録と写真を現地の自治会や公民館に提供して伝統技術・文化の活用と維持に役立っている点は評価される。（須藤顧問：堺市博物館 館長）

サバニ建造の実態の現状を明らかにし、また着実に地元とのパイプをつくっている。予算が大幅に余っているのはなぜか。（後藤顧問：南山大学教授）